



議会だより

2016年2月1日発行

第47号



■ 定例会	2
■ 【特集】 先進地視察報告	4
■ 一般質問	6
■ 委員会報告	19
■ 町民の声、あとかき	20

発行 鳥取県琴浦町議会

編集

議会広報常任委員会 電話/(0858)52-1710 FAX/(0858)52-1718

<http://www.town.kotoura.tottori.jp/>

琴浦町議会

検索

12月定例会 一般質問12議員・26項目



琴浦町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例

スタート

琴浦町12月定例会は12月7日から18日までの12日間開かれました。陳情は1件で、町長からの提案は条例が8件、補正予算が8件、その他が1件でした。

条例では、いわゆるマイナンバー利用の条例が新たに制定されました。この条例の正式名称は見出しにあるように舌を噛みそうな長いものです。

マイナンバーに関連した条例の改正は「印鑑条例」「介護保険条例」で、納期を変更する条例として「税条例」「国保条例」「介護保険条例」の一部改正も審議されました。

補正予算はいずれも小額なもので12月議会の特徴は12人の議員が26項目を二日間にわたって質した一般質問です。

賛否が分かれた議案・請願・陳情の起立採決による審議の結果

審議結果	審議結果		大平	澤田	桑本	語堂	山田	藤堂	藤本	新藤	高塚	川本	小椋	手嶋	青亀	桑本	井木	前田
	賛成	反対	高志	豊秋	賢治	正範	義男	裕史	則明	登子	勝	一郎	正和	正巳	壽宏	始	裕	智章
「名護市辺野古への新基地建設凍結と地方自治の尊重、国民的議論の推進を日本政府に求める意見書」提出に関する陳情書（委員長報告は「不採択」。原案について採決）	不採択	1	12	×	×	×	×	欠	欠	×	○	×	×	×	×	×	×	議
琴浦町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の制定について	採択	12	1	○	○	○	○	欠	欠	○	○	○	○	○	×	○	○	議
琴浦町介護保険条例の一部改正について	採択	12	1	○	○	○	○	欠	欠	○	○	○	○	○	×	○	○	議

この表に掲載していない議案は全会一致で可決しました。審議された議案の一覧は下表をご覧ください。

○=賛成 ×=反対 欠=欠席 議=議長

請願の件名その他詳細につきましては3ページをご覧ください。

審議された議案の一覧

番号	議案名	審議結果
127	琴浦町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の制定について	原案可決
128	琴浦町職員の再任用に関する条例及び琴浦町議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部改正について	原案可決
129	税条例の一部改正について	原案可決
130	国民健康保険税条例の一部改正について	原案可決
131	印鑑条例の一部改正について	原案可決
132	琴浦町立保育園条例の一部改正について	原案可決
133	介護保険条例の一部改正について	原案可決
134	町営バスの運行及び管理に関する条例の一部改正について	原案可決
135	一般会計補正予算（第8号）	原案可決
136	国民健康保険特別会計補正予算（第3号）	原案可決
137	住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第2号）	原案可決
138	下水道事業特別会計補正予算（第3号）	原案可決
139	赤碓財産区特別会計補正予算（第4号）	原案可決
140	安田財産区特別会計補正予算（第1号）	原案可決
141	以西財産区特別会計補正予算（第2号）	原案可決
142	水道事業会計補正予算（第3号）	原案可決
143	境界確定請求事件に係る訴えの提起について	原案可決
議員提出	13 琴浦町議会委員会条例の一部改正について	原案可決
陳情	8 「名護市辺野古への新基地建設凍結と地方自治の尊重、国民的議論の推進を日本政府に求める意見書」提出に関する陳情書	不採択

臨時議会

臨時議会は、10月14日と11月30日に開かれ、化粧川汚濁水対策、西港土砂撤去費用合わせて400万円支出するなどの専決処分、住宅明渡訴訟の報告や2回の補正で2,008万円一般会計を増額する補正予算が提案され、可決しました。

議会報告会・意見交換会を開催しました

(11月20日)
赤碕地区



出された意見

- ・毎月の配布物が多い。もう少し精査して絞って欲しい。
- ・自主防災組織の情報交換できるよう、「連絡会」を作って欲しい。
- ・県道船上山赤碕線（赤碕駅前から支援学校前）と町道駅前八幡線の歩道は、狭い上に傾斜があり危険なため、早急に改修をお願いしたい。
- ・赤碕地区公民館裏の崖の立木が大きくなり、不安の声が上がっている。その他でも、台風などでの倒木の危険もあるため、対応をお願いしたい。

(11月28日)
下郷地区

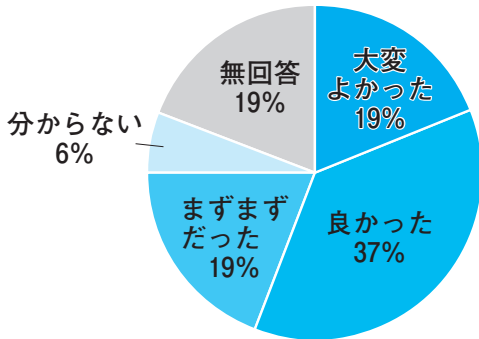


出された意見

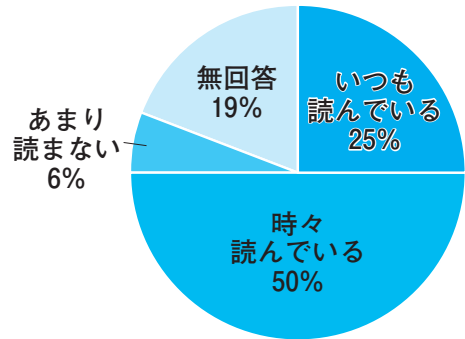
- ・部落の中を流れる用水は、行政としてその重要性を周知して欲しい。また、火災時に取水する場所（消火栓、防火用水、用水路等）の点検をお願いしたい。
- ・給食センターに出荷する野菜は、機械での処理のため大きさが不ぞろいだと受け取ってもらえない。地産池消の推進、また農家の生産意欲向上のためにも、許容範囲を広げてもらえないか。
- ・下郷公民館の入口の表示が小さくてわかりにくい。地域の利用者のみとは限らないので、誰でもわかるようにして欲しい。
- ・下郷公民館は避難場所にも指定されており、県道からの除雪をお願いしたい。

アンケートの結果

今回の意見交換会は？



「議会だより」について



請願・陳情

[平成27年12月定例会]

番号	件名	提出者	要旨	委員会付託	結果
陳情第8号	「名護市辺野古への新基地建設凍結と地方自治の尊重、国民的議論の推進を日本政府に求める意見書」提出に関する陳情書	反核・平和の火りレー鳥取県実行委員会 実行委員長 田中 修一	辺野古新基地建設に関して、3点を明記した意見書を政府各機関に提出すること。 1、名護市辺野古への新基地建設工事を当面の間凍結すること。 2、新基地建設を継続する際には、特別法の制定による住民投票の結果を尊重すること。 3、米軍基地問題を沖縄に固定化せず、県外・国外への移設を念頭に置いた国民的な議論を国会等ですすめること。	総務	不採択

今回の視察研修は、事前研修会を開き4ヶ所研修したが、琴浦町の「米久おいしい鶏」に事前勉強として工場の見学も行った。

目的は、先進的な自治体を視察することで企業誘致の推進を図り、誘致が実現する方向はなにかと模索するためです。

企業誘致は関係者が一丸となって協力体制をつくり、取り組んでいかなければならない課題です。また、農業など地域資源を活かした観光振興につながる起業の先進例もこの目で見たいと思ひ出かけました。

名阪国道（25号線）の針インター周辺での事業が最も効果的と事業実施。

- ①施設：レストラン、喫茶、温泉、いちご園、物販。
- ②課題と展開
 - ・ インターネット販売の強化。
 - ・ 地域振興の拠点とすべく、体験プログラムの提案。
 - ・ 県内の道の駅との連携による効果的な集客事業の実施。
 - ・ 休憩機能だけでなく、情報発信、地域の連携機能の強化。
 - ・ 防災の拠点としての施設整備。
 - ・ 外国人観光客に対する多言語対応。



奈良
道の駅 針テラス(奈良)

行政

京丹後市



平成25年に商工業総合条例を制定（新基本計画）し、「場づくり」「人づくり」「機能づくり」をめざした。

基盤整備は、市が体系的に実施をする。

- ①市長の人脈が広く、誘致に有利に働いている。
- ②行政の職員、議員も含め関係者が協力体制を作っている。
- ③ものづくりの拠点として「丹後・知恵ものづくりパーク」を設立。京都工芸繊維大学との連携など、人材育成に取り組んでいる。

年 商：54億円（2013年）

職員数：正職員・アルバイトを含め約1,000名

- 事業内容：①農場の運営（米、しいたけ、野菜、果実）
②農畜産加工場の運営
③レストランの運営

特 徴：6次産業化に成功している。農業公園として、小学生の修学旅行や研修を受け入れるなど、農業や加工品づくりの体験を通しての食育にも大きな役割を果たしている。



伊賀
モクモク手づくりファーム

米久

夢工場



設立：本社工場と静岡工場を統合し、新たに「夢工場」を設立。
 従業員：約250人
 製造品目：ハム、ベーコン、ソーセージ、焼き豚、ローストビーフ。
 印象：工場内の衛生管理が徹底していた。

「米久おいしい鶏」（本社琴浦町）の今後
 ①2年で1,000万羽処理を達成し、10年かけて1,500万羽体制にしたい。
 ②加工品については、現在は他工場へ委託している「鶏つくね」の製造を考えている。

研修を終えて……

わが琴浦町でも企業誘致が実現するよう、職員及び議員そして関係者が一丸となって協力体制をつくり取り組んでいかなければならない。

また、「道の駅針テラス」「伊賀の里モクモク手づ

くりファーム」のように、農業などの地域資源を活かした観光振興につながる起業も大いに考えていくべきではないかと思った。



読まれる議会だより めざして

議会広報常任委員会は、10月20・21日に編集技術向上のための研修に出かけました。研修で印象に残ったことを報告します。

最初のテーマは、「わかりやすい文章の書き方」です。広報、文書改善コンサルタントで柏崎市広報専門官でもある小田順子氏は、役所の分かりにくい文章を例に「文書を分かりにくくしている原因」を解明しました。

続いてわかりやすい文章を書くテクニックとして「見やすい」「読みやすい」「わかりやすい」文章の書き方を伝授。さらに、伝わる



会場前にて



満席の研修会場

文章の書き方として「読みたくなる文章」「伝わる文章」の作成手順に話を進め、議会広報紙だから「声なき声を聴く」ことが大切だと強調されました。

受講して「役所言葉の分かりにくさはその通りだ」「読んでもらえる文章が書けるか大変勉強になった」といった強い評価の感想が出され、有意義な研修になった。

さて、研修の成果は「ことうら議会だより」の紙面に表れているのでしょうか？

ここが聞きたい

一般質問 Q&A

質問議員	質問事項	掲載ページ
藤本 則明	① 教育問題の姿勢について	7
桑本 賢治	① TPP大筋合意と今後の農業について ② 道路改良について 八橋小学校入口交差点の拡幅と立石団地に続く町道の拡幅	8
大平 高志	① 消防団の機能充実について ② 主権者教育への対応状況について ③ 領土問題への認識について	9
高塚 勝	① 平成28年度予算編成について ② 主権者教育、啓発について	10
青亀 壽宏	① 町政運営におけるコンプライアンス（法令遵守）の徹底を ② 補助金の見直しについて	11
手嶋 正巳	① 野生鳥獣と畜加工施設の充実について ② ナラ枯れ被害について	12
澤田 豊秋	① TPPへの対策について	13
新藤 登子	① 介護予防事業の取り組みについて ② まなびタウン南側(駅南)入口への標識設置について	14
語堂 正範	① 浦安市との連携について ② 若者の声が届く体制づくりを ③ 公民館の活用について ④ リノベーションによるまちづくりを ⑤ インパクト投資・クラウドファンディングを活用した地域づくりについて ⑥ グルメのまち琴浦町の更なる推進を ⑦ 農業委員会の在り方について	15
川本正一郎	① 「コトウライフ」について	16
小椋 正和	① 船上山周辺整備と今後の観光振興について ② 赤碕地区の道路整備について	17
桑本 始	① 心のケアについて	18



藤本 則明 議員

問 教育問題 情報提供早く

答 地域と連携は当然 山下町長 体制が整備されている 石前教育委員長

問 不審者情報、体罰、いじめ、そして人権・同和問題など、教育を取り巻く社会の現状は想像をはるかに超えている。これらの問題解決のため、町民へ速やかな情報を提供すべきと考えますがどうか。

答 山下町長

町民への情報提供は、琴浦町情報公開条例が一つの手立てであり、人の生命、健康、生活または財産を保護するため、公にすることが必要であると認められる情報は公開できる。教育問題に対しては、保護者等地域と連携して子どもを育んでいくことは当然である。

答 石前教育委員長

不審者情報やいじめ問題については、体制が整備され、保護者との情報共有による対応が行われている。個人情報保護などを判断し、「ふるさとを愛し、未来を拓く琴浦っ子の育成」をめざしている。

問 町の学校では

いじめ、不登校、体罰についての現状はどうなっているか。

答 数件ある
小林教育長

学校からの報告によると、小学校も中学校も不登校、いじめが数件報告されている。

問 担任に無視された

県内のいじめ問題について、担任の先生に言ったが、知らん顔をされたというアンケート結果が何件かあったという事だが、教育長はどう思うか。

答 寄り添う必要がある
小林教育長

子どもたちの様子を観察していないところから始まるのではないかと。子どもたちの反応に敏感に対応していたり、寄り添ったりする必要があったのではないかと思っている。

問 差別は予断・偏見から

今なお部落差別や人権差別が平然と残っている。予断や偏見、そして無関心が招く一つの結果ではないかと思うが、教育長の見解は。

答 無知から偏見が生じる
小林教育長

無知から誤解が生じ、そこから偏見が生じるという事は、同感だ。

問 同和問題より一層に

同和問題が50年過ぎてても何ら変わらない姿を見ると、より一層取り組む必要があると思うが。

答 同和問題を基軸に
山下町長

本町は、同和問題を基軸として様々な人権問題に取り組んでいる。一番の基本理念は、それぞれの人の人権を大切にすることという事で取り組んでいる。





桑本 賢治 議員

問 TPP対策審議会設置を

答 情報収集しながら対応

問 TPPが大筋合意され、安倍首相は、「関税撤廃の例外を数多く確保できた」「重要5品目の約束は守ることができた」と強調したが、私はそうは思わない。

このままでは、琴浦町農業は壊滅的な危機に直面すると思われる。そこで、農協など関係者をもって「TPP対策審議会」を早急に立ち上げ、具体的に行動に移すべきと考えるが、どうか。

答 山下町長

TPPについては、町単独で分析することは困難であり、国、県の対策等の情報を収集しながら対応したい。TPP対策審議会（仮称）の設置については、検討したい。

問 やはり必要では

TPPは農業者が影響を受ける。琴浦町の産業構造を考えると、やはり国や県に要望していくような協議会、対策会議のようなものが必要と思うが町長はどう考えるのか。

答 考えさせていただく
山下町長

国や県の分析結果などを基にした

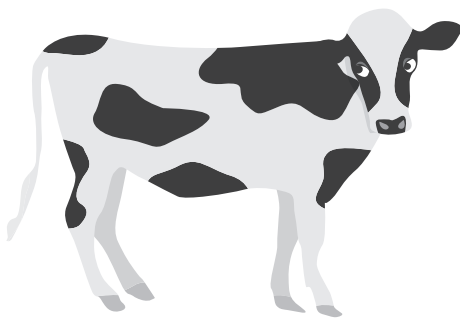
から検討していく。少し考えさせていただきたい。

問 減反廃止どう考える

2018年には減反政策が廃止されると聞いている。減反政策廃止に伴う農業政策をどう考えているのか。

答 「きぬむすめ」に期待
山下町長

全国で評価された「きぬむすめ」に期待している。また、転作作物としての畜産の飼料米、飼料用稲の栽培が制度廃止後の方向として考えている。



問 八橋小入口交差点
拡幅改良は

「国道9号線の八橋小学校入口交

差点の道路拡幅」と「立石団地に続く町道拡幅」について、町長の見解を問う。

答 実施を予定
山下町長

八橋小学校入口交差点改良については、国土交通省へ要望し、本年度、測量と用地の取得を進めており、平成28・29年度の実施予定になっている。また、国道から立石団地へ続く町道の拡幅は、道路用地の取得が困難なため事業中止となっている。

問 デマンドで対応か

ガーデンヒルズ立石台は、平成28年度からデマンド交通で対応すると聞いているが、その内容は。

答 違った方式で
山下町長

デマンドではなく、違った方式で考えている。

…… 課長の補足説明 ……

▽小泉商工観光課長

平成28年度からタクシー助成制度を導入する予定であり、2分の1の助成を考えている。



大平 高志 議員

問 消防団の装備の改善は

答 年次的に更新



問 消防団の加入促進、事業者への協力、団員の処遇改善、装備の改善と現況を問う。

答 山下町長

成人式で加入促進パンフレットを配布している。

装備の改善は、全団員にケブラー手袋の配布を行った。老朽化の進んだ装備品は年次的に更新をしている。

問 機能別制度を

団員の職業多様化や勤務先の広範困化により、日中の消火活動が手薄

になる。消防団OBによる火災時等の非常時に活動を限定した「機能別消防団員制度」を導入してはどうか。

答 導入を視野に 山下町長

導入を視野に入れるが、現時点では各種災害に対し、消防団、消防署、自衛消防団の3者連携をどのように円滑に行うかが、課題と考えている。

問 政治的中立性の確保は

選挙権年齢が18歳以上に引き下げられる。学習指導要領に何らかの形で大きく浮上するのは確実とみられる。

今後を見据えたときに、今まで以上に政治的中立性を厳守することが求められる。
学校の全教員が政治的中立性を守り、資質を高め指導能力を養うための手だてについて伺う。

答 指導していきたい 石前教育委員長

学習指導要領は、大きな変化はないと理解しているが、公教育を担う教職員として、自覚を求めるよう機会を捉えて指導していきたい。

答 公正・中立な立場で 小林教育長

政治的事象を取り扱う際は、公正かつ中立な立場で教育するよう、学校長をはじめ全教職員を指導していく。

問 領土問題の認識は

学習指導要領（解説）で、竹島、尖閣諸島、北方領土について、我が国固有の領土と明記されているが、教育委員会の認識と、教育の現状について問う。

答 発達段階に応じ 石前教育委員長

我が国固有の領土と考える。児童、生徒には、発達段階に応じ、正しく理解させることが大切と考えている。

答 3分野について学習させている 小林教育長

領土問題については①日本の領土として確定した経緯と背景。②他国により不当に占拠に至る経緯。③平和的手段による解決。の3分野について学習させている。



高塚 勝 議員

問

予算編成の考えは

答

総合戦略スタートの年

問

①当初予算案について町長の関与は。

②サマーレビュー(事業点検)の反映は。

③各事業に関し全職員、町民、外部有識者の提案の導入は。人口減に対する考え方は。

④関西事務所を見直し、地元企業の育成、起業に方向転換すべきでは。

⑤外部有識者による事業棚卸により、見直しを行うべきではないか。

答

山下町長

①総合戦略スタートの年と位置付け、1ヶ月早く、希望を持ち心豊かに暮らせる「まちづくり」、明日のふささを支える「ひとづくり」地域に元気をもたらす「しごとづくり」をイメージした編成にした。

②事業の見直し、継続、廃止も含め、複数課の連携を図る。

③広く意見・要望を聞きKPI、P D C Aサイクルを確立する。

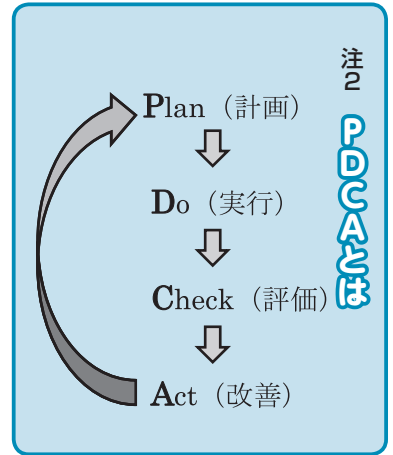
④企業誘致は、来年度末までに1社実現したい。

⑤今後は事業見直しを実施する。

注1 KPIとは

企業目標の達成度の指標。

注2 PDCAとは



問

トップダウン方式を

トップダウン方式で明確な予算編成方針を各課に提示し、職員に周知徹底(事業検証も考慮)させた方がいいのではないか。

答

従来手法にこだわらない
山下町長

そういうスタイルは取っていないが、当初予算編成は、事業検証を実施し、選択と集中による効率的な予算配分、先駆的事业の積極的要求など、従来の手法にこだわらない事業提案を指示している。

問

どう見直したのか

サマーレビューでどの様に見直したか。全ての見直した事業を把握しているのか。

答

改善を指示している
山下町長

事業検証による改善点を含め、問題意識を持って取り組むように指示をしている。

問

18歳選挙権の啓発は

選挙権年齢が18歳になり、主権者としての教育啓発の対応は。

また、18歳成人式を開催し、 debat(賛否の討論)や模擬選挙を行い、啓発を図ってはどうか。

答

行事を通じて育む
小林教育長

学習や学校行事など、さまざまな教育活動を通して育んでいくことが大切。

答

学校教育が重要
源内選挙管理委員会委員長

若い有権者の投票率の低下が問題であり、若年層への教育・啓発活動に重点を置く必要がある。高校については、県選管が出前講座、模擬選挙を実施している。

学校における主権者教育を充実させていくことが政治関心を高める最も重要なことだと考えている。



青亀 壽宏 議員

問 文化センターの設置・職員体制は

答 社会・児童福祉法で設置 山下町長
意見具申に基づきとある 小林教育長

問 隣保館、文化センターの設置、運営と職員体制について広報ことうらでも取り上げられており答弁を求める。

答 山下町長

文化センターは社会福祉法、児童福祉法により2館設置している。隣保館には館長1名と指導職員1名、児童館には児童厚生員各1名を配置し、生活相談員は各隣保館に1名ずつ配置している。

答 小林教育長

国の「人権教育・啓発に関する基本計画」には社会福祉施設である隣保館は最終意見具申に基づきとある。本町でも必要な人員配置を行っている。

問 町広報紙は間違いでは

広報紙「ことうら」には福祉施設と書いてあり、これは正しい。しかし、隣保館の役割として「部落解放の拠点」「あらゆる差別をなくすための拠点」と書いてあるがこれらは間違いではないか。隣保館は教育施設ではなく社会福祉施設では。

答 教育活動も含まれる 小林教育長

隣保館の事業はさまざままで、福祉の分野もあれば教育的な分野もある。人権問題の啓発もやっており、教育活動も含まれる。

問 生活相談員の位置付けは

生活相談員はどの位置づけられているか。教育委員会規則ではどうなっているか。

答 規則第3号です 小林教育長

設置服務に関する規則第3号です。

問 権限あるのか

教育委員会に非常勤の特別職を任用する権限があるのか。

答 教育機関の職員 小林教育長

「教育委員会及び教育委員会が所管する学校、その他の教育機関の職員の任命」という規定がある。

問 国の制度はどうなっている

生活相談員は国の制度としてあった。2002年8月29日の厚生労働省社会・援護局長通知はどうなっている。

答 「廃止する」とある 小林教育長

地域改善対策対象地域における生活相談員の設置について、第82号を廃止するとある。

問 おかしいのではないかと

生活相談員制度は廃止されたが、5年も経ってから設置を決めた。これはおかしいのではないかと。

…… 課長の補足説明 ……

▽長尾人権・同和教育課長
本町は、部落差別が現実の問題であると認識し、生活相談員を配置している。

※青亀議員はほかに情報公開や補助金の問題についても質問しました。



手嶋 正巳 議員

問 野生鳥獣加工施設を

答 難しいと考える

問 野生鳥獣と畜加工施設の充実について問う。捕獲した野生鳥獣のうち食肉に利用するのは14%にとどまっている。食肉利用の低い要因は、加工処理施設の不足にある。農協など関係機関と協力して取り組む考えはないか。

答 山下町長

捕獲される主なものはイノシシで、本町で自家消費されている。北栄町の施設では、販路拡大が課題となっている。また、三朝町では売れ行きが悪く中止となっている。このような状況にあつて、食肉加工施設は難しいと考える。

問 捕獲オリ購入したか

今年度予算で、捕獲オリを町が購入し、それを貸し出すとあつたが、どうなっているか。

…… 課長の補足説明 ……

▽高橋農林水産課長

11月に入札、12月中旬には納品予定になっている。

問 今後の対応は

昨年の捕獲実績では、鹿が16頭、イノシシが204頭と年々増加している。今後とも減るとは思えないが、どう対応するのか。

答 連携しながら取り組む
山下町長

地域おこし協力隊の1名が頑張つて資格をとり、猟友会の指導を受けている。

しかし、傾向としては今後とも増えることが想定されるので、県なり、他の市町村と連携しながら取り組んでいく。

問 現場見たか

ナラ枯れ被害は、山林所有者にとつて深刻な問題である。10月下旬に「ナラ枯れ加速、駆除間に合わぬ、悲鳴」という報道があつた。町長は現場を見たことがあるか。また、どのような対策が必要と思つか。

答 大成、船上山周辺見た
山下町長

大成、船上山周辺を見てきた。被害木調査結果は、11月26日時点で1946本となっている。

駆除は、伐倒搬出・薫蒸・シート被覆または立木薫蒸のいずれかを行っている。

問 駆除間に合うのか

大山町の担当者が、人や金の面で駆除が間に合わないと言つていたが、琴浦町はどうか。

答 なかなか対応できない
山下町長

実際には1本1本をビニールで覆つたりする作業になり、なかなか対応できない。



捕獲オリ



澤田 豊秋 議員

問 TPPの『戦略会議』が必要では

答 生産者の不安払拭に努める

問 TPPにはメリットもあるが、デメリットとして安い農産物の輸入による農業に対するダメージ、規制緩和により食の安全が脅かされる、といったものもある。

本町は農業が基幹産業であり、TPPに対する戦略会議等を設けて対策を講じる必要があると思つがどうか。

答 山下町長

地方創生先行型予算で酪農の首都圏への販路拡大を目指し、駐在員を配置した。県は28年以降は牛乳の安定供給を目指し、デイリータウン構想を提案している。町としては生産者の不安を払拭できるよう努力する。

問 早く『戦略会議』の設置を

政府は大綱を示しているが、流動している。知事は、国内外に打って出る反転攻勢に期待していると述べている。

本町では、畜産クラスター事業がTPP対策の目玉になると副町長が表明しているが、しつかり情報収集に努め、早く戦略会議を設けるべきではないか。

答 具体的対策打つ
山下町長

農林水産業の町ということでは「影の部分」の対策を考えていかなければと思つている。目に見える具体的な対策を打っていく。TPPを主要な課題とした組織、何らかの組織を立ち上げる必要があると考えている。

問 町のありよう考えては

当面農業中心の対策が急がれるが、農業以外のものも積極的に取り組む必要がある。

「守りから攻め」という中で、これからの農業はどうあるべきか、「集落営農」など町のありようを考えていく必要があると思つが。

答 幅広いメンバーで
山下町長

TPPを検討する審議会の人材は農業者以外の人も入れるようなメンバーで構成しなければと思つう。

問 一体的な連携を

我が町でも、全国、世界に打って出るもの、地域で守るものをしつかり考えて対応することが大事ではな

いか。

「中部版DMO」^{注3}の取り組みが始まっている。町も一体的な連携のものと活力のある町を目指すべきではないか。町長の決意を聞きたい。

注3 DMOとは

観光地域づくりプラットフォームのことで、中部では梨の花温泉郷協議会を法人化し、取り組んでいる。

答 しつかり取り組み
山下町長

地方創生を成功させ、TPPという大きな流れの中で琴浦町の課題を解決しなければならぬ。しつかり取り組みたい。「中部版DMO」も育てていかなければならない。





新藤 登子 議員

問 公民館バリアフリーに補助を

答 補助制度の新設を検討

問 各集落の公民館で段差をなくし、トイレも洋式にする部落に補助をする考えはないか。

介護予防、琴浦体操、100歳体操の啓発、推進はどのように進めているのか。

体操指導者の配置、配属、活用はどうなっているのか。

答 山下町長

公民館のトイレの洋式化を含め、バリアフリー化は来年度に補助制度の新設を検討している。

介護予防体操として町歌に合わせて「琴浦体操」となじみの曲にあわせた「新しくわく琴浦体操」がある。今年度は「新しくわく琴浦体操」の普及・啓発が柱になっている。

「100歳体操」は、今後も官民協力しながら推進していく。

新しくわく琴浦体操リーダーは、28名が誕生したが、来年度以降も養成を検討している。

問 DVD作れないか

「新しくわく体操」や「琴浦体操」のDVDを作成できないのか。

…… 課長の補足説明 ……

▽藤原福祉課長

琴浦町歌に合わせた琴浦体操のDVDは作って町内に配りました。新しくわく琴浦体操はなじみのある歌なので著作権の問題があり、音と映像が一緒というのは困難で28年度に向けて検討中です。

問 終了後のフォローは

パワーリハビリに週2回行って一回が200円といえます。それが3ヶ月で終了するが、終了した後のフォローを考えているのか。

…… 課長の補足説明 ……

▽藤原福祉課長

パワーリハビリは15年度から委託して年間60人の方に週2回、3ヶ月のコースで行っている。限られた人数で3ヶ月が終われば次の人になる。元気になるって近所のサークルで体操していたのが目的。

問 案内標識の整備を

まなびタウンの南側駐車場入り口がよくわからない人が多い。特に夜はわかりにくい。標識を設置すべきではないか。

答 わかりやすい誘導にする
山下町長

山陰道の開通などアクセスルートが変わろうとしている。これらとあわせ、案内標識の設置を県土整備局と協議を重ねており、教育委員会とも協議し、わかりやすい誘導にする。

問 街路灯の設置を

下郷公民館に行ったが、標識がなく、行き過ぎてしまった。暗いのと両方で問題と思った。必要な場所には街路灯をつけるべきではないか。

答 整備している
山下町長

街路灯は部落の要望で一番多く出てくる。町は多額の予算を投入して整備している。



語堂 正範 議員

問 浦安市とのつながり どう生かす

答 無理の無い範囲で 山下町長 積極的にかかわる 小林教育長



問 浦安市を訪問し、市長と懇談した際、どのような話をしたのか。今後、琴浦町と浦安市との交流など、つながりをどう活用するのか。

答 山下町長

市長とは、お互い無理のない範囲での交流を、実務者レベルにおいて検討しようとした。
また、町内企業のビジネスチャンスにつながる可能性も感じた。

答 小林教育長

琴浦町の活性化に向けて活動が積極的に展開されることを期待している。本町への修学旅行などといったメニューが企画され、交流活動の構想が上があれば、生徒交流なども含め、積極的に関わっていこうと思っている。

問 若者の声届く体制を

若者同士が琴浦町の未来を創造し、提言できる環境・体制の整備が必要と考えるが。

答 若者は地方創生の鍵
山下町長

組織によっては規模や活動の縮小等の課題も見られ、協働での取り組みなど行政が主導して今後の展開も検討していく必要がある。

組織の中でやる気やリーダーシップのある人材が輩出されてくることも重要である。また、若い人は地方創生の時代の鍵と考える。

問 意見交換の場を

町内で意見交換会の場を持てば、積極的に支援をしていく考えはあるか。

答 積極的に対応
山下町長

若い人の意見交換や提案を聞いた話し合う場の企画があれば、積極的に対応する。

問 農業委員会について

①既存の農業委員会の在り方をどのように考えているのか。
②建議書をどう捉えているのか。
③今後の農業委員会をどう考えているのか伺う。

答 行動する農業委員会
山下町長

①各種の事業推進や農業者に対する農政の普及推進を行い、農地制度に関する業務執行の全国的な統一性、客観性の確保を図り、行動する農業委員会として遊休農地対策などにも積極的に取り組んでいる。
②建議書については、委員から説明を受け、内容を協議しながら対応している。
③今後は、主たる使命である農地の担い手への集積、集約化、耕作放棄地の発生予防・解消、新規参入の促進や農地利用の最適化を行っていく委員会であると考えている。

※語堂議員は、ほかに①公民館の活用、②リノベーションによるまちづくり、③インパクト投資・クラウドファンディングを活用した地域づくり、④グルメのまち琴浦町の更なる推進についても質問しました。



川本正一郎 議員

問 コトウライフと総合戦略

答 地方創生に成果引き継ぐ 山下町長
 発達性の連続重視 小林教育長

問

26年度より実施している人口減対策「コトウライフ」の実施状況と成果、今後の課題、地方創生総合戦略と合わせてどのような事業の充実と推進をはかるのか。

答

山下町長

「まち・ひと・しごと総合戦略」を策定する際「コトウライフ」事業を再検証した上で、効果の期待できるものを引き継ぎ、総合戦略に盛り込んでいる。

今後は、地方創生の取り組みの中で年度ごとに成果や課題を確認しながら取り組んでいく。

答

小林教育長

教育の柱の一つに「学びと育ちの一貫性を重視した教育の推進」を掲げ、15歳までの子どもの発達の連続性を重視した取り組みとして、「いきいき遊び、脳活、スキルアップ学習」の実践を重ね、本町の特徴ある教育活動として取り組んでいる。

問

手づくりの公園マップを

子どもたちに公園マップを作らせてはどうか。例えば夏休みに各小学

校区の公園を、子どもたちが特色などを調べ、琴浦町の公園マップを作成するのは有意義と思うが。

答

センスはいい
 山下町長

子どもたちが両親と一緒に手づくりのものを作っていくプロセスはセンスはいいと思う。地方創生という理念の中で考えたときに、わかりやすいやり方かなと思う。

答

検討してみたい
 小林教育長

子どもたちが地域を探検したり地域のことをよく知る事は、非常に大切な事と思う。校区内で子どもたちが動ける範囲で検討してみたい。

問

子ども会議を

スキルアップ、脳トレの効果として子ども会議など実施してはどうか。また、効果が出たら、それを発表する場を作ってはどうか。

答

子ども会議の計画がある
 小林教育長

東伯中学校では本年度「こども議会」の計画があり、実施したいと思っている。

問

コーポラスことうらの委託を

移住定住の推進で、コトウラ暮らし応援団がいろいろな事業を推進している。成果があれば聞きたい。

コーポラスことうらを、コトウラ暮らし応援団に管理委託して、運営をしてもらえば、普通の民間の住宅やアパートのように常時入居できるのではないか。

……課長の補足説明……

▽福本建設課長

コーポラスことうらの民営化は、取得時の条件で困難です。

▽小泉商工観光課長

コトウラ暮らし応援団との連携ですが、空き家登録の現地立会・相談会を実施している。コトウラ暮らし体験ツアーも開催している。

また、アイデアや専門性を生かした取り組みと行政の移住定住推進事業との連携をとりながら、移住定住の推進を図って行きたい。



小椋 正和 議員

問 万本桜公園整備を

答 維持・管理に注力したい

問 万本桜復活事業として、今後の植栽は、船上山ダム南方県道を中心とした両側の山林を整備し、憩いの広場として楽しめる場所としないか。

答 山下町長

船上山万本桜復活事業については、昨年の100本に続き、今年度30本の桜を植栽した。現時点で新たな植栽は考えておらず、維持・管理に注力したい。

問 植栽場所確保できる

県道の上・下の状況では、それなりの植栽場所は確保できるのではないか。

答 新植考えていい
山下町長

検討する中であって、新植をしていくということは考えていいと思っている。

問 安全に淹めぐりを

3月議会の答弁によると、琴浦アルプスの魅力をアップさせる整備と、安全に淹めぐりができる整備を

実施する計画であったように思うが、どの程度進捗しているのか。

答 整備を行う
山下町長

倒木等の危険個所があれば処理等の日常整備を行っているが、今後も安全に淹めぐりができるよう周辺整備を行っていく。

問 大山開山との連携を

大山開山1300年として、大山町、米子市では盛り上げに動いている。船上山も同じ修験道者の関係した寺坊跡などの史跡がある。活用する取り組みを検討しないか。

答 推進する
山下町長

伯耆国大山開山1300年祭の奉賛会などがあって出席した。今後、関係機関と連携を図り、推進をしていく。

問 県道のバイパスは

県道赤碓船上山線の上上り大石間は、拡幅が困難と認識し、県当局にこれまで以上に接触を持ちながら要望活動を展開していくと、3月議会

で答弁している。要望活動を活発化するといいながら文書要望も行っていないと聞いている。出上り今在家間1.2kmのバイパス化に取り組み考えは本当にあるのか。

答 行っていない
山下町長

現道の危険個所の改良の要望であり、バイパス化の文書要望は行っていない。

今年度は交通量調査を実施しており、引き続き本格的な調査を予算化していただくよう要望している。

問 説得はいつまで

この道路は大変危険であり早い改良が望まれるが、地元の説得はいつまでを期限としてやるのか。

答 文書で要望
山下町長

説得をして、それがだめな場合、28年度中には、県へ（バイパス化）の文書での要望でやっていくということです。



桑本 始 議員

問 心のケアの対応は

答 要望があればでかける

問 心のケアについて、行政ではどのように対応しているか。特に大人に対する取り組みについて伺う。

答 山下町長

心のケアは、定例の健康相談や講演会活動、そして啓発活動があるほか、企業や部落の要望があれば出かけ、メンタルヘルスの研修会等を開催している。また、自死対策として広報やホームページへの掲載、チラシ配布等に努めている。

問 いじめへの対応

心身に重い被害を受けるいじめは、2013年度から23件減の156件と調査報告があった。いじめの被害者の自殺、本人を含め、家族、親戚が精神疾患になっている状況もある。小・中学校、高校生の心のケアは、本町の行政ではどのような対応をしているのか。

答 配慮している
石前教育委員長

中学校にスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーを配置している。各小学校にも教育相談等

で訪問、保護者や児童生徒への相談、支援会議等へ参加をしてもらい、問題の解決につながるよう努めている。また、町独自に中学校へ学校相談員の配置や、児童生徒の学習等の支援をする講師を配置し、発達段階や特性に応じた学習や学校生活ができるよう配慮している。

問 アンケート結果の公表は

大津では、いじめで子どもの心身に重大な被害が出た場合などに、学校が児童生徒に行うアンケートの結果について被害者に伝える準備が発表された。

加害者の氏名も知らせる踏み込んだ内容だが、この件についての所見を伺う。

答 慎重に対応
石前教育委員長

大津事件の報告書には加害者、被害者に対する心のケアについても提言がある。個人情報保護等、情報公開には慎重に対応すべきだと考える。

問 メンタルデリバリーを

メンタルデリバリー（派遣）、前向きに生きていくために温かい心を

お届けします。こういうことを取り組まないか。来年以降、障がい者計画第二期が施行されるが、この中に、そういう文言を入れてはどうか。

答 訪問・相談対応する
山下町長

福祉課の中に障がい者地域支援センターを立ち上げ支援を行っている。昨年度の実績は延べ637件、月平均53件の相談対応を行っている。今後も、福祉課の精神保健福祉士を中心として、訪問や相談対応をしていきたい。

問 傾聴ボランティアの養成を

心の時代に必要なのは、人の話を聞ける能力、聞く知性が求められている。社協で傾聴ボランティア養成の推進に取り組んでいるが、社協以外でも取り組むべきと思うがどうか。

答 今後も必要な取り組み
山下町長

傾聴ボランティアは、25年度から社協のボランティアサークル「傾聴ことの会」として活動を開始し、現在8人の登録がある。

今後必要な取り組みであると認識している。

委員会報告

総務

12月14日に委員会を開会、各課より聴き取りを行ったのち、付託されていた陳情案件「名護市辺野古への新基地建設凍結と地方自治の尊重、国民的議論の推進を日本政府に求める意見書」提出に関する陳情書を審査し、午後から町内視察を行った。

視察として、まちなみ環境整備事業が完了した光集落、次年度より実施される予定となっているデマンド型乗合タクシー運行路線である国主く上中村、植樹が行われた船上山万本桜公園、旧東伯小学校跡地に建設されたソーラー発電施設などの視察を行い現状を確認した。

委員長 語堂 正範



上中村バス停を視察

教育民生

12月15日に委員会を開催し、所管の各課より説明を受け、各委員より健康づくり推進の各課の連携状況や第二期障がい者計画の策定状況、住宅新築資金の債権回収の取り組み等について、意見・質疑等を行なった。特に、債権回収問題では、回収が極めて困難なものは、弁護士に相談しながら、財政的に負担が少ない処置を取るべきではとの意見が出された。

また、委員会として東伯・赤碕の両文化センターを視察し、ねらいや活動報告並びに、現状について各館長より説明を受けた。人権尊重のまちづくりに一層の努力をしていかなければと感じた。

委員長 藤本 則明



赤碕文化センターで説明を聞く

農林建設

12月16日に委員会を開催し、所管の各課より説明を受けそれぞれの委員が質疑を行った。

報告が行われた船上山発電所の故障による発電休止に関し、報告が遅れたことについて委員から執行部に対し厳しい意見が出された。

また、10月5日に懸案の化粧川土砂流出に関し、担当課より説明を受けたのち、現場を視察し現状を確認した。更に、11月5日にも追加説明を受け、委員会としても不安を払拭するよう指摘した。

農林水産業・建設関連を取り巻く状況は厳しく、委員会の責務は重大であり、諸問題の解決に向けて委員一同努力していきたい。

委員長 大平 高志



担当課から説明を受ける

広報常任委員会

ちよつとうれしいニュースをお知らせします。

鳥取県町村議会広報コンクールにおいて「ことうら議会だより」が、「佳作」に入選しました。森本定和審査委員長（元山陰中央新報）の審査講評を紹介します。

「読んでほしい」という気持ちで伝わる意欲的な編集。一般質問は一人一ページでまとめてあり読みやすい。全体としてよくできていますが、加えて、かつての議会で指摘された『政策のその後』とか、町政の課題といった事項の特集など企画があれば優秀作となる。表紙写真も園児の表情、しぐさを生かした微笑ましい作品」というものでした。

委員長 青亀 壽宏



「議会だより」の編集の様子

町民の声

—今回は地域おこし協力隊の方に書いていただきました—

地域おこし協力隊って何??



地域おこし協力隊
かわしま たくみ
河島 匠さん

琴浦町に移住してきて一番多いのがこの質問です。今日はこの質問に対する回答を書きたいと思います。

地域おこし協力隊とは、都市部から人口の少ない地域への移住定住の流れを作る総務省の制度です。協力隊員と呼ばれる我々は、国から給料と活動費をもらって日々活動しています。しかし、いつまでも国からお金がもたらえるわけではありません。協力隊は一年ごとの更新で、三年が限度になっています。つまり、私たちが三年後に琴浦町に住み続けるためには、起業・就職・就農のいずれかをしなければ生きていけません。

私は琴浦町の自然を県外の住人、日本中の人に知ってもらおうというのを一番の目的にして活動しています。そのためにまずは、琴浦町の良い所（自然や歴史、施設や食べもの）などを知ることが、今年一年の自分の使命だと思っています。

これから、琴浦町の自然をどんどん発掘していきますので、よろしくお願いします。

コトウライフの一年間はあつという間



地域おこし協力隊
たかはし りゅうた
高橋 龍太さん

現在、私は地域おこし協力隊として働いています。昨年の上月からは約一年が経ちました。二月は釣にあるお試し住宅を利用し

ながら就職活動をし、四月から地域おこし協力隊として働いています。

「あれからもう一年が過ぎたのか」と思うくらい毎日が新鮮で、本当にあつという間の一年間でした。船上山や一向平へナラ枯れ調査に行ったり、河川清掃・イノシシの解体の体験・里山ウォーキングなど、様々なことを行ってきました。

これからは取り組むことは、有害鳥獣であるイノシシ肉の商品化です。琴浦町では昨年・今年度、年間およそ二百頭のイノシシが捕獲されています。地元の大阪では食べたことがなく、琴浦に来てから初めて食べました。イメージしていた臭みはなく、とても美味しいと感じました。上手く活用し、里山保全へと繋げていきたいです。

「琴浦町は元気があるぞ」、これからもそんな声が聞こえるよう、精一杯頑張ります。



あとがき

議会広報に携わり、2年が過ぎようとしています。この間、読みやすい広報紙になるよう編集委員が一体となり取り組んできました。

紙面の工夫では、特に一般質問のページに力を入れました。議員一人当たり必ず1ページを確保して紹介する、聞きなれない用語には解説を入れるなど、読者を意識した編集を心がけてきました。

少し前から一般質問をする議員が増えてきました。もしかしらば、広報紙の改革がその一助になったのではないのでしょうか。

今回はいま話題の地域おこし協力隊の二人に書いていただきました。

(桑本 賢治)

議会広報常任委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 青亀 壽宏 |
| 副委員長 | 大平 高志 |
| 委員 | 桑本 始 |
| 委員 | 新藤 登子 |
| 委員 | 桑本 賢治 |
| 委員 | 澤田 豊秋 |

表紙写真

平成28年成人式のスナップ。
おめじさんぽうがこます。